

令和五年五月吉日初版作成

究極の悟りへの道

高嶋善三郎

目次

- 人間は、何処からきてどこ何処に行くとどこにいるのか・・・3
- 私達の天命を完うしていくプロセス・・・4
- 神聖の光を降ろせば降ろすほど、悟りは深くなる・・・5

お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（携帯）090-3346-6619

（メールアドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

人間は、何処から来てどこ何処に行くとどこから来るのか

これについて、五井先生のお言葉（白光誌1962年9月号20ページ）に基づき、整理します。

私たちは、宇宙神の分身分霊であり、己の意識波動を低くしてこの肉体界に地上天国を現わすために降りて来ているのです。

地上に降りてきた分霊は、神界から他の階層（幽界・肉体界）に働きかける時に現わされる相（すがた）として、魂と表現されています。

そして、次のように解説されています。

分霊は、霊界より粗い波動である幽界に降りてゆく時に魂の相となり、その心（念）をもって各幽体を創造し、それをまとった姿で幽界をつくりました。そしてさらに肉体界に降りてゆく時に守護神の働きにより魂要素が集められ、物質化した肉体をまとった姿となり、いろいろと経験をし、人間的に調和完成されて、肉体を脱ぎ捨てると、分霊と合体し、神界では直霊と合一し、守護神的な働きをするところになっているのです。

分霊が、いろいろと経験をし、人間的に調和完成されていく過程について次のように説明されています。

大生命である大霊が七つの霊に働きを分けて、いわゆる職能というか、働きの特色というか、使命というか、ともあれ、七つの色に分かれたのです。これを七つの直霊と五井先生は呼ばれています。この七つの直霊が各自のいのちを働かし、互いに交流し合い助け合って、この人類世界に、やがて神の世界を完成させようとしているのです。それぞれの直霊から分かれた分霊は、分かれた直霊の特色を強くもち、後の六つの要素は、その特色の裏面で、この特色を助けて働いているとされているのです。

例えば、紫の働きをもつ直霊から生みなされた、紫の特色をもつ分霊は輪廻転生を繰り返しながら進化向上の道をたどっていくその過程においても、本来の特色である紫の本質的働きは変わらないが、その特色は内に隠されて、今生においては補助的働きの一つである青の要素を強く表に現わしているかもしれません。しかし人間は自分の特色の他の六つの要素の働きを、その時その時に体験としてマスターしながら、本来の特色を深めつつ、人間的にも調和完成された姿となって直霊に帰一し

ていつく道をたどるよといつくよとなるのです。

私達の天命を完うしていつくへプロセス

また、この肉体界に降りてきた私達の天命を完うしてゆく現状と将来について『永遠の光』において五井先生が示唆されています。

(一)

自然に開くはなのこと

時来てめむむ神にこころ

祈りの道は深けれど

やがていのちの泉得ん

(二)

ひとそれぞれの性のまま

目指すは高き神の庭

導き給うみ使いは

天にも地にもおわすなり

(三)

己が心の和を保ち

ひとひとの幸ねがう身の

清らなひびき天地(あめつち)に

世界平和の道ひらく

(四)

きらめく星は空にあり

輝く知性人にあり

神のみ心地に受けて

永遠の光の花咲かす

この歌詞は五井先生がご帰神になられる直前に書かれたものであり、その時から現在までを振り返りますと、この歌詞に書かれている道筋を経て現在にいたっているように感じてなりません。

昌美先生のご指導のもと2003年から宇宙究極の一筋の光を降ろすご神事が毎月開催され、その結果2009年に富士聖地が四次元の地となり、2010年に私達地球人類の叡智のチャクラである第六チャクラが開かれ、2014年には、新年祝賀祭において、「宇宙神の根源に汝らの魂は直結した」というご神示がありました。そして2016年の7月の果因説による大成就の共磁場を創り上げる行事により第五次元

の扉を開くことができました。2017年には、地球人類を救済できる、神聖復活の印が降ろされました。

この歌詞を見てみると、これらの一連の出来事が甦り、そして今、天の理念を地に現わす取り組みを前にしていることに気付きます。その取り組みのためには、神人が、縦横十字、つまり、理想と現実を調和させ、精神問題と物質問題とを融合させてゆく能力を持っていなければなりません。それを可能にするのが、神聖エネルギーであり、私達はその働きを理解し、印により自分の肉体を通してこの地上世界に降ろしているのです。地球人類は、この神聖のエネルギーに共鳴することによって、神聖が復活し、肉体人間観から人間神の子観に変わっていき、平和へと向かう大きな足掛かりになるのです。

即ち私たちは、肉体的には様々な存在に見えますが、魂的には、神聖意識によってつながっており、お互いを思いやる愛や真や赦しの言行には無条件に共鳴する存在です。これまで神聖意識が十分発揮されなかったのは、長年蓄積されてきた肉体人間観に基づく自己中心な想念行為によって、形成された業想念に神聖意識が覆われ、眠らされてきただけで、神聖復活の印により降ろされたエネルギーによって業想念が浄められ、神聖意識が目覚めされることになるのです。

神聖の光を降ろせば降ろすほど、悟りは深くなる

私達神人は、世界人類の神聖意識を目覚めさせるため、自己の神聖意識をより深いものにしていくことが大事です。

それを行う上で、参考になることは、既に『直観力を取り戻す』でも言及しておりますように、次の三点について整理しております。

- ① 自らが放つ想念と波長が合う、周りの想念を引き寄せくくるので、祈り、自らの想念を浄めること
 - ② 日頃の自らの想念のあり方として、全ての物事について原因結果だけでなく、一瞬一瞬のプロセスにも愛を注ぎ、感謝を注ぎこむこと
 - ③ 否定的想念や言葉は、死語にしていくこと
- また、『真の中庸の道、大調和の道』においても、肉体人間観から人間神の子観になることの意義やその方法、真の祈りの在り方や、消えてゆく姿の正しいやり方について整理しています。

今回これに加えて、参考になることについて紹介したいと思います。
「ヨカでは、チャクラをとおして生命エネルギーを自分の肉体に受け入

れることを重要視していますが、その理由について示唆してくれる内容を言及したいと思います。

七柱の神（エロヒム）がそれぞれのエネルギーを出し合い、この人類世界に、神の世界を完成させようとしています。その一環として私たちの肉体には外部と体内のエネルギーを交換する場として七つのチャクラがあり、各チャクラには私達が突破すべき課題がそれぞれあるということです。第二チャクラ（丹田）には、みんなと喜びをもって共に過ごし、コミュニティをつくるという課題が。第三チャクラ（鳩尾）には、神としての自分の意識を持って表現する課題が。第四チャクラ（ハート）には無条件の愛無限なる愛を思い出していく課題が。第五チャクラ（喉）には、根源からくる自分の真実を現わしていく課題が。第六チャクラ（眉間）には、偉大なる自分を思い出す課題がそれぞれあるのです。

私達がそれぞれの課題を突破するために、聖なる母（女性性）の、創造のエネルギーであるクンダリーニ（シヴァ神と離れ離れになったシャクティ女神）が何万年もかけて私達それぞれを、愛をもって見守って大事に育ててくれているというのです。そして私達が各課題を突破して第七チャクラに至ると、そこには、聖なる父（男性性）のエネルギーであ

るシヴァ神が待っていて、この二つのエネルギーが統合して一つになったとき、各人の悟り（神我一体）が成就され、第七チャクラにある、聖なる自分を思い出す課題の扉が開かれるというのです。

この内容からすれば、悟りにはいろいろな段階があり、私達が叡智のチャクラが開かれた時、天と地を結び者になったということでしょう。しかし、常にチャクラを活性化していないと、チャクラは閉じてしまうとも言われています。ヨガでは、鉢に植えた花に毎日水をやり育ていくように、チャクラを通して宇宙神の光を降ろし、チャクラを活性化させ、どのような大きな光をも受け止められるように光体意識を育ていくことを重要視しています。そして愛と真と赦しの言行をすればするほど、降ろされてくる光は無限に大きくなるということです。

私達神人にとっても、同様なことが言えます。常に神聖（本心）に想いをよせ、毎日に水をやるように、宇宙神から光を直接浴び、それをこの地上の世界人類に愛と真と赦しの言行をなすとともに、神聖エネルギーを放射すればするほど、世界人類を癒す光は無限に大きくなると言えます。それに従って人間神の子（霊光人間）としての意識が深まり、私達の悟りはますます深くなるということでしょう。